



櫛形山のアイヤメは復活するか？



はじめに

櫛形山(標高 2052m)は、アイヤメの群生地として知られている場所です。7 月半ば頃の花の最盛期には、その花を愛でるために多くの登山者、観光者が訪れていました。しかし、2006 年頃から、アイヤメの花が急激に少なくなりました。その原因と対策を考えることを南アルプス市より依頼され、その結果についてお知らせします。

アイヤメの減少の原因は？

南アルプス市が設置した「櫛形山アイヤメ保全対策検討会」では、アイヤメの減少について、乾燥や病気による減少など、多岐の原因が想定されました。まずはニホンジカによる影響を排除し、それでも減少が続くようならばニホンジカ以外の影響によって減少したのだろうということが考えられます。そこでニホンジカが中に入らないようにする植生保護柵を設置しました。そうすると、アイヤメは背を伸ばすことができ、数年後にはアイヤメは花を咲かせることができました。したがって、ニホンジカの影響がアイヤメの開花の減少には大きく影響していることがわかりました。実際、センサーカメラ(赤外線に動く物が反応して画像が撮影される無人自動カメラ)には、数多くのニホンジカが撮影されており、しかも厳冬期の一時期を除いては、ほぼ一年中ニホンジカが撮影されました(図1)。

その後、当所の研究課題(ニホンジカ影響下の半自然草原における植生復元—櫛形山における事例研究—、H23-25)や、南アルプス市、山梨県により、植生保護柵が増設されました。その結果、植生保護柵の中ではアイヤメは復活しつつあります。また、アイヤメだけではなく多くの植物も復活しつつあります。

これから考えること

植生保護柵を設置することは、ニホンジカの摂食から植生を守り、回復することに有効であることがわかりました。しかし、植生保護柵の外側では、ニホンジカにより食べられ、踏まれ続けるために、植生は大きく変化、もしくは植生が失われることになってしまいました(写真1)。植生保護柵による対策は、植生保護柵内には有効であるものの、影響を受ける場所が他の場所に移動したに過ぎません。したがって、ニホンジカ対策はこのような対策のみならず、多すぎるので減らす(個体数管理)、これ以上増やさない(生息地管理)ということ、同時に総合的に考えることが必要であると、櫛形山で起こっていることは教えてくれています。

しかしながら、櫛形山のアイヤメの群生地などは、車を降りてから 1 時間以上歩いていかなければならないところです。このように、個体数管理を行うことが難しい場所でのどのように総合的な対策を考えていけばいいか、解決すべき課題が残っています。

山梨県内では、ニホンジカの影響が顕著な場所が増えてきてしまっています。貴重な植生や守るべき場所は、植生保護柵で早めを守るのが肝心です。一方で、並行して個体数管理を行うことが重要性であることを、すべての関係者で考えることが重要です。

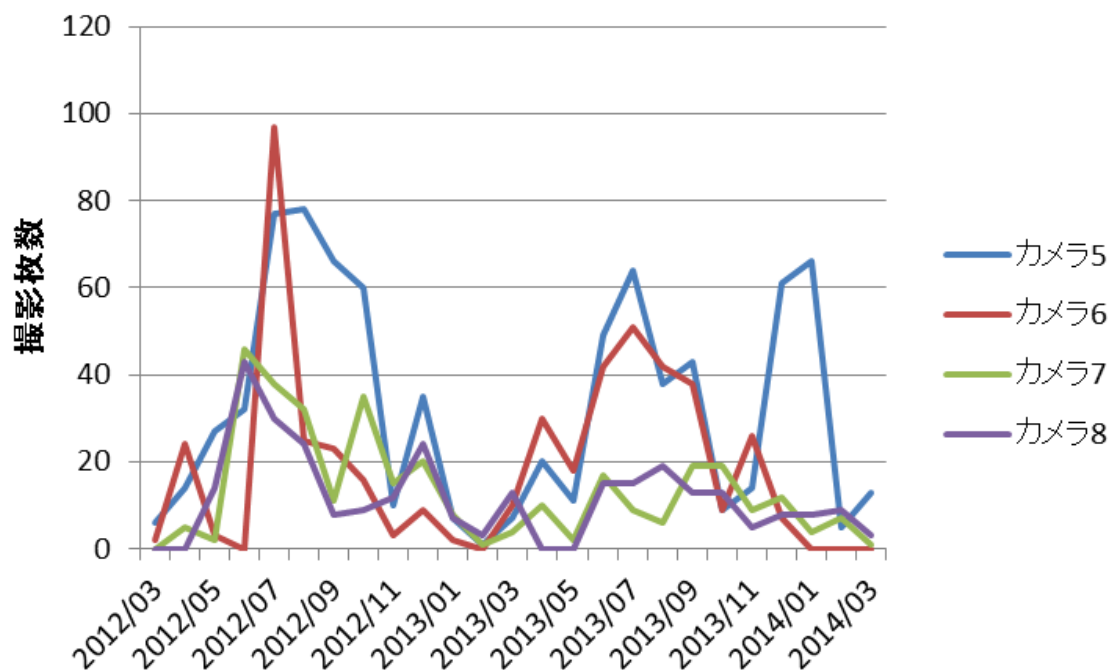


図1. センサーカメラによるニホンジカの撮影枚数



写真1. 植生保護柵内外の様子(2015年8月5日)

作成：山梨県森林総合研究所
 森林研究部 環境保全科
 長池卓男

連絡先
 TEL 0556(22)8001 FAX 0556(22)8002
 メールアドレス sinsouken@pref.yamanashi.lg.jp